岡山県立岡山操山中学校・高校

グローバル・リーダーに必要な5つの資質・能力を全校で共有、中高6年間を通じ、全校体制で育む

中高6年間の課題研究を軸に、汎用的な資質・能力を育んできた岡山県立岡山操山中学校・高校は、2015年度に文部科学省「スーパーグローバルハイスクール（SGH）」の指定を受け、その動きを加速させている。グローバル・リーダーに求められる5つの資質・能力の育成に向けた「GLOBAL STUDIES」「未来航路」、そして「SOZAN国際塾」の取り組みを紹介する。

グローバル・リーダーに必要な精神「和して流れず」を継承

2002年度に県内初の県立中学校を併設し、中高一貫教育をスタートさせた岡山県立岡山操山中学校・高校は、1期生入学とともに、「総合的な学習の時間」を「未来航路プロジェクト」としてスタートさせた。これは、中高6年間で系統的に進める探究型の課題研究で、中学校では体験学習や講演会などで岡山から日本、世界へと視野を広げながら身近な題材で課題研究を行う。そして、高校からは、日本や世界と自分の関心とのつながりを意識しながら各自でテーマを決めて課題研究に取り組む。同校が前身校から受け継ぐ「和して流れず」を軸とした全人教育のために、中高が連続性を持って行う活動だ。

この取り組みは、生徒の学習意欲の向上などの成果につながり、進路実績も順調に伸びていった。そうした安定期にありながらも、中高一貫校10年目の12年度、次の一手として打ち出したのが「グローバル・リーダーの育成」だ。スーパーグローバルハイスクール（以下、SGH）推進室主任の金山満彦（かなやまみつひこ）先生はこう語る。

「『グローバル・リーダーの育成』は、学校が安定しているからこそ、10年目の節目にそれまでの教育活動を見直し、次の10年に向けた本校の教育のあり方を考えようという、当時の校長からの提案でした。グローバル化やIT化が加速し、先行きが不透明な時代が予測される中でどのような人材を育成すべきか、社会でも本格的に考えられ始めた時期でもありました。進学校として社会のリーダーを輩出してきた本校でも、次代のリーダーに必要な資質・能力を明確にし、学校全体で組織的に育む体制を整えようとしたのです」

そこで、各校務分掌の主任が集まる「企画経営委員会」や中・高の各代表者による「中高一貫教育推進室会議」を中心に、グローバル人材に求められる資質・能力について検討を重ね、「幅広く深い教養」「課題解決能力」「コミュニケーション能力」「リーダーシップ」「社会貢献の意識」という5つの資質・能力を定めた。そして、それらの育成を目指し、13年度、「SOZANグローバル人材育成プロジェクト」に着手。まず、課題研究の深化を図るため、「未来航路プロジェクト」の名称を「未来航路」と改めた。

岡山県立岡山操山高校
金山満彦 かなやま・みつひこ
教職歴23年。同校に赴任して12年目。主幹教諭。SGH推進室主任。

岡山県立岡山操山高校
蟻正聖登 ありまさ・きよと
教職歴36年。同校に赴任して8年目。指導教諭。SGH推進室GLOBAL STUDIES担当。

岡山県立岡山操山高校
福島亮一 ふくしま・りょういち
教職歴15年。同校に赴任して9年目。SGH推進室未来航路担当。進路指導課。

岡山県立岡山操山高校
青山 聡 あおやま・さとし
教職歴14年。同校に赴任して7年目。SGH推進室SOZAN国際塾担当。

岡山県立岡山操山中学校・高校

◎創立110年余りの県を代表する進学校。前身の岡山県高等女学校時代からの「和して流れず」、岡山県第二岡山中学校の「松柏の精神」を継承し、高い学力と豊かな人間性を持った志の高い生徒の育成を目指す。2002年度に県内初の県立中学校を併設し、中高一貫教育を開始。05年度入学生から単位制に移行。15年度から、文部科学省「スーパーグローバルハイスクール」指定校。

◎**設立** 1900（明治33）年
◎**形態** 全日制／単位制普通科／共学
◎**生徒数** 1学年約280人
◎**2017年度入試合格実績（現浪計）**
国公立大は、北海道大、東京大、京都大、大阪大、神戸大、岡山大、九州大などに150人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、早稲田大、同志社大、立命館大、関西大、関西学院大などに延べ374人が合格。
◎URL http://www.sozan.okayama-c.ed.jp

「本校には、課題研究の指導を10年以上行い、課題解決能力を育成してきた実績があります。それを生かし、本校ならではの独自性のある活動を拡充させることで、『未来航路』をグローバル・リーダー育成に向けた教育活動の核としました」（金山先生）

さらに、14年度には、「グローバル人材育成推進室」を立ち上げ、「未来航路」「SOZAN国際塾」「GLOBAL STUDIES」を連動させる体制を整えた（**図1**）。そして、15年度には、文部科学省「SGH事業」の指定を受けた。

図1 岡山操山中学校・高校が育成を目指す5つの資質・能力と達成に向けた主な取り組み

グローバル・リーダーに求められる5つの資質・能力

- **幅広く深い教養**：グローバルな課題を理解できる国際的な素養がある
- **課題解決能力**：グローバルな視点で課題を発見し、論理的に解決策を考えることができる
- **コミュニケーション能力**：多様な人の考えや価値観を理解し、自分の考えを伝えることができる
- **リーダーシップ**：主体性と協働性を持ってチームを動かすことができる
- **社会貢献の意識**：岡山・日本・世界のために貢献しようとする

未来航路
「総合的な学習の時間」
中高6年間で系統的に課題研究に取り組む
- チームによる協働学習で課題研究：高3「世界の課題解決」（選択）／高2「世界における日本の役割」／高1「課題研究力育成」
- 体験学習や講演会などで視野を広げる：中3「世界を知ろう」／中2「日本を知ろう」／中1「岡山を知ろう」

SOZAN 国際塾
任意の課外活動
独自の課題研究、学外の機関と連携した多様な体験学習を実施
- オーストラリア、アメリカ等での研修
- 外国人講師による英語のプレゼンテーションスキルアップ講義
- 大学での特別講義
- 企業見学
- 各種コンクール、大会への参加

GLOBAL STUDIES
授業で5つの資質・能力向上
各教科が設定した Global Can-do List に基づいた資質・能力を育む授業を行う

＊学校資料と取材を基に編集部で作成

5つの資質・能力を教科指導に落とし込む

同校のグローバル・リーダー育成の軸となる3つの取り組みをそれぞれ見ていこう。

まず土台となるのが、日々の授業の中で5つの資質・能力の育成を目指す「GLOBAL STUDIES」だ。実技教科も含め、全教科でアクティブ・ラーニングを実践し、指導力向上を図るため、各教科、大学教員や岡山県総合教育センターの指導主事に外部講師を依頼している。

また、同校には中・高合わせて130人以上の教師がいる。これだけ人数が多ければ意識の差も生じ、毎年異動もあるため、全校でベクトルをそろえるのは難しい。そこで、16年度に作成したのが「Global Can-do List」だ（**P.50図2**）。これは、各教科の指導内容や教科特性に応じて、中学1年生～高校3年生の各学年での5つの資質・能力の到達目標を設定したものだ。

到達目標は、中・高合同の各教科

図2 「Global Can-do List」国語（抜粋）

	幅広く深い教養	課題解決能力	コミュニケーション能力	リーダーシップ	社会貢献の意識
解説	国語による表現や日本文学について正しい知識を身につけており、我が国の国語が中国漢字文化に文化的恩恵を受けつつ独自の発展を遂げ、近代化に際して西洋の文化を柔軟に吸収しながら成立してきたことを理解していること。	先人たちの知識や価値観を学ぶとともに、近現代に関する理解を深める中で、課題を発見し、長期的展望を持ちながら、論理的・科学的手法で解決しようとすることができること。	互いの立場や考えを尊重しながら他者とかかわり、言語を通して適切に表現したり的確に理解したりして、円滑に相互伝達・相互理解を進めることができること。	激しく変化する現代社会において、国語を適切に運用して良好な人間関係づくりや健全な社会づくりに積極的にかかわろうとすることができること。	長い歴史の中で育まれてきた我が国の言語文化を学ぶことを通じて、社会に対する理解を深め、社会の根幹としての国語を継承してよりよく発展させようとしたり、積極的に社会にかかわろうとしたりすることができること。
高校3年	常用漢字の読み書きに習熟するとともに、自身を取り巻く様々な価値観が近代的な知の枠組みに依存して成り立っていることを理解することができる。	様々なジャンルの論評を通じて、前近代、近代、脱近代それぞれの立場や思想に関する理解を深め、課題を巨視的な視点で捉え解決策を探ることができる。	様々な文章や文学作品に関する意見や感想を話し合ったり、文章化して相互に批評し合ったりすることができる。	様々な考え方ができる事柄に関する発表や討論に際して、それぞれの立場を尊重しながら相互の意見交換が円滑に行われるよう取り計らうことができる。	様々な文章や文学作品を学び、意見や感想を文章化する活動を通じて、言論によって社会とつながりを持つことを知ることができる。

＊学校資料を基に編集部で作成

会で検討。教師それぞれで思いや解釈に違いがあり、時間を要したが、教科内での目線合わせだけでなく、教科横断で共通理解を図るために有効なものができた。SGH推進室GLOBAL STUDIES担当の蟻正聖登先生は、そのねらいをこう語る。

「グローバル・リーダーの育成というと起業家や外交官をイメージしがちで、自分の授業には関係ないと捉える先生もいました。また、5つの資質・能力について、例えばコミュニケーション能力といっても、国語科と理科では捉え方が異なります。そこで、日々の授業がグローバル・リーダーの育成という大きな目標につながっていることを意識してもらい、授業改善に結びつけることを目指し、それぞれの資質・能力を育むためには授業の中でどのような指導や視点が必要かを、教科ごとに考えてもらいました。また、各教科で5つの資質・能力の育成を目標とすることは、幅広いグローバル人材の育成にもつながるという思いもありました」

「Global Can-do List」は、教師間だけでなく、年度の初回の授業で生徒にも配布・解説し、理解と浸透を図っている。また、中・高共通の校内研究のテーマを、16年度は「『Global Can-do List』による授業改善」、17年度は「『Global Can-do List』の活用と検証方法の研究」とし、実質化を進めている。

「『Global Can-do List』は運用し始めたばかりで、これが完成版ではありませんし、生徒の資質・能力の育成に結びつかなければ意味がありません。公開授業などでいただいた学外の方の意見を参考にしながら、改訂を進めていきたいと考えています」（蟻正先生）

答えが1つでない課題の解決策をチームで考える

このように、日々の授業で教科学力とともに5つの資質・能力の土台を築いていき、それを大きく伸ばしていくのが「未来航路」と「SOZAN国際塾」となる。

「未来航路」は、以前は進路学習の側面が強く、志望する学部・学科に結びつく課題研究を生徒個々に行っていたが、5つの資質・能力の育成の観点から刷新した。まず、高校1年生では、身近な題材による研究を協働活動を多用して進め、課題研究を行うための基礎を培う。そして、高校2年生では、「貧困と飢餓」「紛争と平和」「教育」「健康と疾病」「貿易と開発」「持続可能な開発と環境問題」の6分野から関心のある分野を選ばせ、クラス混合の5～6人でチームを組み、各チームでテーマを決めて課題研究を行うこととした。SGH推進室未来航路担当の福島亮一先生は、次のように説明する。

「チームは教師側で決めています。メンバー全員が初対面ということもありますが、そうした状況から目標に向かってチームで協力していく経験を通して、社会性や忍耐力などの非認知能力の大切さを実感し、身につけていってほしいと考えました」

研究分野の設定にもこだわった。

「社会の課題は、正解が1つではありません。例えば、開発も必要だが、環境保護もしなければならないというような、最適解を模索していくことが求められます。生徒にそうした課題を投げかけた上で、研究テーマを決めさせ、チームで調べ、議論させます。そして、理想で終わらせず、何よりも実現可能な解決策を考えるよう指導しています」（福島先生）

学外での体験を多く積み チャレンジ精神を育む

一方、「SOZAN国際塾」は、学びを深めた生徒がさらにステップアップできる場を設けようと、14年度にスタートさせた任意参加の課外活動だ。現在、約30人の塾生がいる。生徒の発案により「エネルギー効率のよいエコカーの開発と普及」をテーマにした課題研究を進めるとともに、大学での講義の受講、企業見学、ほかのSGH校との合同研究発表会、オーストラリアやアメリカの高校との交流などを行っている。SGH推進室SOZAN国際塾担当の青山聡先生は活動の意図をこう語る。

「SOZAN国際塾では、大学や企業の協力をいただき、生徒が自分の研究を学外に発信する機会を数多く設けるようにしています。より難しい課題に取り組み、学外での経験を積むことで、果敢に挑戦する積極的な生徒を育むことがねらいです。実際、塾での経験を生かし、『未来航路』でリーダーシップを発揮する生徒や、研究発表を英語でする生徒もいます」

活動後には、振り返りシートで、生徒は5つの資質・能力について活動前と比較した自己評価を行う。

「毎回の活動を振り返ることで、自己の成長と課題に自分で気づくメタ認知の能力を育てたいと考えました。自己の気づきが主体的な学びに結びつくと期待しています」（青山先生）

資質・能力を見える化し、取り組み改善に結びつける

自らの課題意識からグローバル・リーダーの育成を図ってきた同校は、SGHの指定を受けたことで、学校全体で資質・能力を育む体制が強化された。突出した指導力がある教師が牽引するのではなく、教師の異動があっても同一の指導が継続可能な体制を築いたことは、新学習指導要領でその重要性がうたわれているカリキュラム・マネジメントの先鞭をつけたといえるだろう。

17年2月に行った高校2年生への意識調査では、5つの資質・能力に関する全24項目中18項目で肯定的な回答が1年次より増えており、取り組みの成果がうかがえた。さらに、16年度に高校1・2年生が、批判的思考力、協働的思考力、創造的思考力を測るベネッセの「GPS-Academic」（以下、GPS）を受検したが、結果分析からは同校が育成を目指す「課題解決力」と「コミュニケーション力」が大きく伸びていることが明らかになった。一方で、「社会への参画意識」には課題も見られたため、17年度は企業と連携した取り組みを強化している。

今後の課題は、それらの成果と課題を踏まえつつ、始めて間もない「Global Can-do List」を実質化し、3つの取り組みを有機的に結びつけることで生み出される相乗効果により、5つの資質・能力をさらに向上させることだ。

「GPSで資質・能力の到達度が見える化されたことは、生徒に取り組みの成果を実感させるだけでなく、主体的に学ぶ姿勢の高まりにも結びついています。これからも、本校に入学した生徒が、地域、日本、世界へと羽ばたけるよう、取り組みを深化させていきたいと思います」（金山先生）

生徒の声

SOZAN国際塾

研究を深めれば深めるほど、答えが出ない

「SOZAN国際塾」では、放課後に集まって課題研究を進めるほか、課題研究を英語で発表することもあるため、週2回、外部の英語講師による、プレゼンテーションを意識した英語講座が開かれている。

高校2年生の上野優花さんは、そのレッスンに魅力を感じ、入塾した。

「フィリピン人の先生と話していると、価値観や文化の違いをよく感じます。例えば、私たちが『かわいそう』と思うものでも、先生にとっては『楽しい、かわいい』という発言があるなど、そうした違いも学ぶことができて興味深いです」

一方、高校2年生の板谷勇飛さんは、塾創立時の中学時代から参加し、課題研究に力を入れてきた。

「持続可能な開発は何かと考えた時に、思い浮かんだのがエコカーでした。しかし、研究を深めれば深めるほど、自分たちの知らないことがたくさん出てきて、今も答えが見つかっていません。自分たちにできることは何かを改めて考え、アプローチをし直しています」

課題研究では、意見をまとめるのが大変だったと、板谷さんは語る。

「メンバーみんなが深く考え、自分の意見を持っているからこそ、全員が納得するようにまとめる難しさを実感しました」

学外で様々な年齢、職種、立場の人と話す機会が多いことも塾の魅力だと、2人は語った。